

対策部会の最近の活動について(多摩市長発言をめぐって)

はるひ野町内会エコプラザ対策部会

■ 多摩市議会での多摩市長発言は部会での意思ではありません

4月に改選となった多摩市議会本会議が6月に開催、終了しました。この間の多摩市議員への陳情活動のもと、住田啓子多摩市議員が6月20日に一般質問に立たれました。エコプラザ多摩の廃プラスチック圧縮設備新設における諸問題についてのやり取りのなか、渡辺幸子多摩市長は次のように答弁されました

住田議員：移動前に杉並病に長く関わってきた科学者、勝木先生、小椋先生、大谷臨床医と対話形式で杉並病の検証をしたらどうか
(といった内容の質問)

渡辺市長：環境フォーラム、環境リスクについてのシンポジウムを7月おわりに予定している。「はるひ野対策会の方とも、パネリストをどなたがいまいかということの話し合いをさせていただいておりますことを、まず、ご報告申し上げたいと思います」

この多摩市長の発言は、エコプラザ対策部会の意思とは無関係ですが、町内会のみなさまにとって、不安や誤解を抱かれるのは不本意なことです。

さらに6月に川崎市へ陳情提出のため、川崎市議会議員にお会いしたところ、多摩市と部会が前向きに協議を行なっている情報が川崎市行政に伝えられていると聞かされました。着工を前提としている多摩市とは協議しているわけではないのですが、シンポジウムの意見交換会があたかも和解をし、圧縮処理施設着工に向けて協議会であるかのように川崎市行政に伝わっている節があります。

これまでも町内会への周知をはかるべく努力してきていますが、あらためて対策部会が対応してきたさまざまなことや現在の方針（優先課題として取りくんでいること）などを本文書にて説明いたします。

1、4月14日多摩市主催の説明会以降の対策部会の活動

- 5月28日(月) 日テレ・リアルタイムにて「エコプラザ多摩」の件の放映
- 6月 5日(火) TBS・イヴニングファイブにて放映
- 6月12日(火) 多摩市陳情提出(署名9,589筆)
- 6月13日(水) 川崎市陳情提出(現在も署名活動中)
- 6月15日(金) TBS・朝ズバッ!にて放映
- 6月27日(水) 多摩市建設環境常任委員会にて陳情の審査 結果は不採択
- 7月 4日(水) 多摩市本会議にて陳情の結果報告及び採決 結果は不採択
- その他
 - ・7月28日に予定されているシンポジウムの開催について
 - 多摩市環境推進課との意見交換
 - ・シンポジウムのパネリストの出演交渉

2. エコプラザ多摩の計画に反対するという対策部会のスタンスは何も変わっていません

対策部会のスタンスは、多摩市議会への陳情書のとおり、安全性が確認されるまで移動しないことを求めることであり、これまでの考え方と何ら変わっていません。テレビ放映もされていますが、科学者や化学物質の専門家の意見や発言を聞いても、廃プラスチック圧縮で発生する化学物質の安全性やリスクを科学的に証明するためには時間がかかることは明白です。多摩市の計画に対

してやみくもに反対を唱えるのではなく、安全だといえる科学的根拠やそのリスク、および住民への説明責任などを現在も追求しているところです。

3. シンポジウムは、多摩市自身が計画したもので「対策部会が協力して企画している」という筋合いのものではありません。

対策部会は4月14日の麻生市民館での多摩市主催の説明会以降、住民が納得できる内容の説明会の開催を求めてきましたが、多摩市はもう説明会は行なわないと拒否しています。説明会のかわりに多摩市が計画したのがシンポジウムです。多摩市はその開催に向けて対策部会の意見を聞きたいと持ちかけてきたのです。共同開催を持ちかけられたのではなく、要望を聞かせてもらいたいというものでした。この間の対策部会の議員や周辺住民に対する周知活動、ならびに報道関係への協力依頼等も功を奏したのか、多摩市は対策部会の声は無視できないと考えているようです。

しかし、そのテーマが「化学物質とどう向き合うか」という多摩市側に都合のよい内容であったため、対策部会は住民の関心から大きく離れたテーマでシンポジウムを開催することに反対し、シンポジウムのテーマ設定を変更することや、パネリストを推薦させてほしいと強く要望をしてきました。

この度の多摩市議会における上記の市長発言は、あたかも「多摩市とはるひ野住民が協力しはじめた」かのように報告したものであり、対策部会としては不快の念を禁じえません。

なお意見を求めた結果、テーマの副題に「プラスチックと化学物質について」をいれ、パネリストとしてTV放映でもご存知の柳沢教授・影本教授に参加いただくことになりました。詳しくは多摩市広報を参照ください。

4. 稼働後の危機管理マニュアル作りのための「エコプラザ協議会」の件について提案は受けましたが一切話し合っておりません。

岩永ひさか多摩市議員の掲示板への書き込みのなかで、「多摩市が対策部会とエコプラザ協議会の枠組みについて協議していると耳にした」といった書き込みがありました。

シンポジウムに関して多摩市に要望していた場において、多摩市側から「エコプラザ多摩協議会の準備会のようなものを夏ごろに立ち上げたい」、「できればそこに参加してもらいたい」との計画を明かされたのは事実です。「エコプラザ多摩協議会」とは、どうやら廃プラスチック圧縮処理施設稼働後の運転中止につながる諸条件、すなわち「危機管理マニュアル」について専門家や地域住民とともに条文を作成し、かつ、その状況を監視していく「協議会」のこのようです。振り返れば、4月14日の多摩市主催の説明会にても、この「協議会」を結成したい旨の表明はありました。

多摩市は「すぐに回答を求めるつもりはない」と付け加えましたが、対策部会は即座に「協議会については一切回答できないし、検討もしない」と発言しました。このことを多摩市側は認識していますし、記録にも残しています。

もし多摩市行政が、「対策部会とエコプラザ多摩協議会の枠組みについて協議している」と外部に対して発言したのであれば、対策部会の立場や考え方に反したこれまでと同様の多摩市の姿勢の現われといえます。あまりにも拙速であり遺憾です。

5. エコプラザ対策部会では、さらに多摩市の動向に着目し、意見し続けていきます

エコプラザ対策部会にはるひ野町内会の部会として2月に発足し、多摩市に対して意見してきました。それは、多摩市、川崎市の議員を通じてであったり、3月の請願、今回行なっている陳情であったり、その他にも考えられる方法や道筋をくまなく模索しながらの活動でした。報道関係者が着目したのも、対策部会の呼びかけが実った結果です。

今後も、多摩市やエコプラザ多摩の動向や状況を監視しつつ、多摩市に説明責任を求める活動を続けていきます。また、ここに記した活動内容は、現時点の状況に応じて対策部会で対応していることです。情勢が変化しと受け止めたときには、あらためて別の角度からの対応を検討していく可能性もあります。ただし、町内会の中の部会としての活動の方向性等に影響する場合は、町内会にあらためて意見を提起しなければならぬと考えています。対策部会は独断でスタンスを変えるべきではないと考えています。あくまでも子どもたちのそしてわたし達の未来のためにという当初からの姿勢は変わっていません。町内のみなさまのご理解とご協力をお願いする次第です。